



京都市武道センター

京都市左京区聖護院門頓美町 46-2

TEL 075-751-1255

アクセス

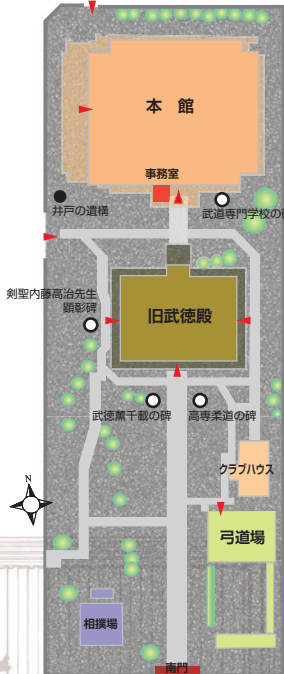
市バス「熊野神社前」下車、東に徒歩1分。
または「京都公会館美術館前」下車北西に徒歩3分。

開館時間 9:00～21:00

休館日 年末年始

※施設をご利用の際は、事前の手続きが必要になります。詳しくは「利用者カード発行窓口」までお問い合わせください。

TEL 075-313-9131



京都市武道センター 施設配置図



武道専門学校の記念碑

京都市武道センターの概要



■本館 鉄骨鉄筋コンクリート造2階建 延床面積4,032m²
主競技場と補助競技場を備えています。武道はもちろん、卓球やバドミントン、バレーボールなどの屋内スポーツにもご利用いただける総合体育館です。
設備●主競技場(1,344m²)・補助競技場(310m²／180畳程度)・観客席(880人)、ロッカー室、シャワー室、会議室など

■旧武徳殿(国指定の重要文化財)
木造平屋建 延床面積1,051m²
明治32年に完成した日本最古の演武場です。剣道、柔道、なぎなたなどの武道の練習や競技会の会場として利用されます。
設備●競技場(354m²／200畳程度)、来賓控室、観客席など

■弓道場 鉄骨造平家建 延床面積526m²
近約(28m)10人立の弓道場で、身体障害者の方も利用しやすいように設計されています。全日本弓道大会など公式試合の会場にも利用されます。
設備●射場(近約10人立)、的場、来賓室、審判室、矢取道、更衣室など

■相撲場 鉄骨造 建築面積113m²
伝統の国技を身近に感じられる「やぐら付き」の屋外土俵です。
設備●やぐら付き土俵、更衣室、足洗場、砂置場など



本館(主競技場)



相撲場



旧武徳殿



弓道場



■岡崎公園野球場・テニスコート
東山を間近に望むのびやかなロケーションが魅力です。
岡崎管理事務所
TEL 075-771-0297

■平安神宮
平安遷都1100年を記念し、平安京の内裏を模してつくられました。朱塗りの社殿の背後には、広大な神苑が広がっています。

■琵琶湖疏水
京都の近代化産業遺産の一つ。四季折々の景色を楽しめます。畔には、疏水竣工100周年を記念して設立された記念館があります。

■京都市勤業館(みやこめっせ)
京都市内最大級のイベント会場。展示会や会議、パーティなど多用途に活用できます。入場無料の「伝統産業ふれあい館」も併設しています。

■京都市美術館
大規模な展覧会だけでなく、随時開催のコレクション展も充実しています。

■無鄰庵
明治の元勳・山縣有朋の別邸。京都を代表する造園家の一人、植治(七代目小川治兵衛)の代表作です。



琵琶湖疏水



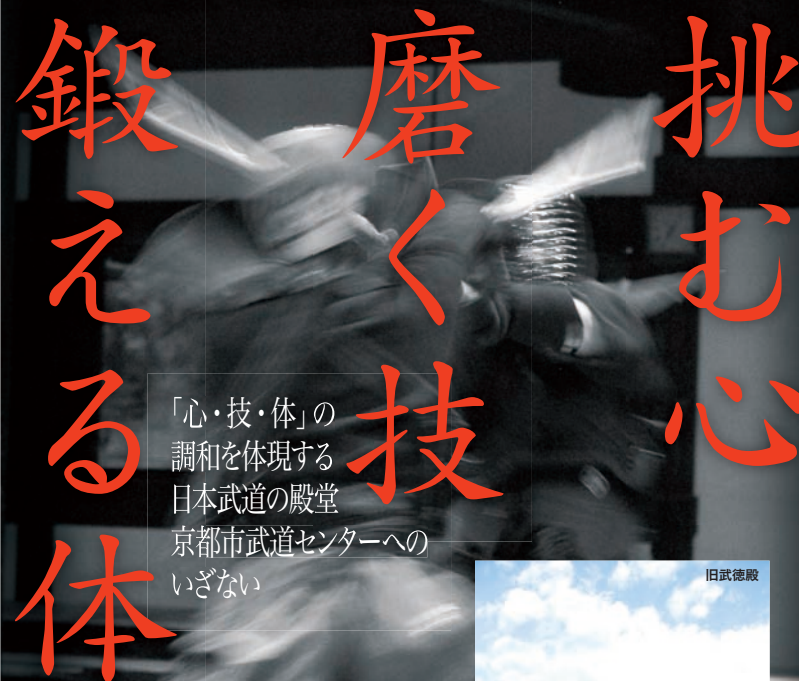
京都市勤業館(みやこめっせ)



京都市美術館



無鄰庵



「心・技・体」の
調和を体現する
日本武道の殿堂
京都市武道センターへの
いざない



旧武徳殿

京都市武道センター

発行 公益財団法人 京都市体育協会



KYOTO C.S.A.

発行 公益財団法人 京都市体育協会

京都市右京区西京極新明町1番地

TEL 075-315-4561 FAX 075-315-4521

URL <http://www.kyoto-sports.or.jp/>

見学を希望される方は
武道センター本館1階の
管理事務所に
お立ち寄りください

存続の危機を乗り越えて復活した 武道の聖地——旧武徳殿

京都を代表する観光地の一つとして賑わう
平安神宮。その西北に陣取る「旧武徳殿」



は、遷都1100年を記念して設立された「大日本武徳会」によって、1899年（明治32）に造営されました。設計は、京都ハリストス正教会聖堂（京都市指定文化財）や京都府庁舎旧本館（国の重要文化財）などを手がけた松室重光です。

後年、武術教員養成所（後の武道専門学校）が併設され、数多くの武道



家や教育者を輩出するなど、日本武道の聖地として活用されましたが、第二次世界大戦後にはアメリカ軍に接収され、武道専門学校は閉校しました。接収解除後は長らく本来の機能を失ったままでしたが、全日本剣道連盟・京都府剣道連盟の働

きかけによって、武徳殿の保存・改修の気運が高まり、多くの武道愛好家たちの援助を受けて、1987年に修復工事が完工しました。明治期の大規模な木造建築であり、日本武道の歴史を物語る重要な建造物であることが評価され、1983年に京都市指定文化財に、1996年には国の重要文化財に指定されました。

明治後期の落成以来、幾多の真剣勝負が繰り広げられた風格あるたたずまいは、百余年の時を超えてなお、武道家のみならず多くの人びとを魅了しつづけています。



玉座



3段に区切られた畳敷きの観覧席が板の間を取り囲み、北側中央には、こけら萱の唐破風屋根のある玉座が設けられています

指導者の厳しい眼差しに張りつめる緊張感、磨かれた板張りに飛び散る汗。自らを鼓舞する雄叫びが響く殿内には、「礼に始まり礼に終わる」日本武道の精神が隅々にまで息づいています

京都市武道センターでは、さまざまな武道の競技大会や稽古が行われています

■剣道、居合道

中世の武家社会に発達した剣術の精神を伝える武道です。日本刀の代わりに竹刀を使う「打ち込み稽古」を重ね、技術の習得を通して心の修練を積みます。面・小手・胴・垂れなどの特徴的な武具を着用し、竹刀を握って戦うその姿は、戦場で剣を交えた侍たちの姿を偲ばせます。



相手と刀を交える剣道の「立合」に対して、鞘から刀を抜き、仮想の敵を倒して鞘に納めるまでの業前（形）の美しさや技の正確さなどを競うのが「居合道」です。

■柔道

柔術を母体に嘉納治五郎が創始した武道で、日本の国技のなかで唯一のオリンピック競技。1964年の東京オリ



ピックで正式競技に採用され、世界各国に普及しました。「柔よく剛を制す」の言葉に象徴されるように、投げ技や固め技を駆使し、小さな体で大きな相手を投げ倒すのが柔道の魅力です。

■相撲

世界各国に多くのファンをもつ相撲は、日本の国技であるとともに、日本古来の神事でもあります。健康と力に恵まれた男性が五穀豊穡を祈念し、神前にその力を捧げる「奉納相撲」は日本各地で行われています。



■弓道

「身体」「心気」「弓技」の安定を図り、三位一体を目指すのが弓道。相手と競い合うのではなく、自分の体感を頼りにするので、周りの状況に影響されやすく、わずかな心の動揺が射術に狂いをもたらします。的中率を高めるには、物事に動じない不動心が求められます。



■なぎなた

装束、試合方法などは剣道に似ていますが、最大の特徴は武器の長さ。2m以上もあるなぎなた（薙刀）を使い、敏速な動きの中から打突の機会を見出し、技を競います。競技には「試合競技」と「演技競技」とがあり、後者は技の美しさの優劣を競います。

■空手道

もとは琉球（現在の沖縄）で発展し、「唐手」「手（てい）」と呼ばれていた武術が、大正時代に本土で紹介され、柔道と交わりながら浸透し、昭和になってから空手として成立しました。柔道と大きく異なるのは、相手に向かって拳を突きだし、足を上げる打撃技。空手の流派には、攻撃を寸止めし、琉球古来の「唐手」を伝える「伝統派」と、相手に打撃を加えて倒す「実践派」とがあります。



■武術太極拳

紀元前にも遡る中国武術の流れを汲む「太極拳」の起源は1640年代と言われています。日本で太極拳がひろく行われるようになって約40年。近年では健康法

や競技として年齢を問わず親しまれています。中国武術は国際的には「武術」の中国発音、WUSHU（ウーシュー）の名称で普及していますが、日本では太極拳と各種の中国武術・拳法を総称し、「武術太極拳」と呼んでいます。

■合気道

柔・槍・杖術の奥義を極めた植芝盛平があらゆる武道の長所をとって創始した武道。特徴は「自ら攻撃しない」こと。相手の氣と自分の氣とを合わせ、攻撃を「捌（さば）き」技を「返す」ことで、体格や体力の差に関わらず「小よく大を制す」のです。試合はなく、形や技の修練を中心に稽古が行われます。



■少林寺拳法

宋道臣が1947年に日本で創始した武道で、教え・技法・教育システムにより、自信や勇氣、行動力と慈悲心をもち、社会で役立つ人を育てる“人づくりの行”が少林寺拳法の理念です。一人ひとりがまず頼りにできる自己を確立し、人間同士が授け合い、共に幸せに生きるための道を説いています。